

令和6年3月

消防施設再編（鎌倉地区）について



鎌倉消防署（昭和49年築）



浄明寺出張所（昭和53年築）

公共施設全体の課題

- ・ 現在、鎌倉市の公共施設は、80%以上が、築30年以上となっており、大規模改修や建替えが喫緊の課題となっている。
- ・ 一方、今後人口が減少していく中で、すべての公共施設を維持・更新していくことは困難な状況となっている。

鎌倉市公共施設再編計画

平成27年3月

鎌 倉 市

<由比ガ浜子どもセンター>



平成29年11月開設

RC造一部鉄骨造、3階建て

<設置施設>

- ・由比ガ浜保育園

※津波浸水区域にあり、老朽化が進んでいた、

材木座保育園と稲瀬川保育園を移転・統合

- ・鎌倉子育て支援センター

※福祉センターから移転

- ・障害児通所支援施設

- ・津波避難ビルとして、外部階段から
屋上へ避難可能



■公共施設再編の事例

<市営住宅>

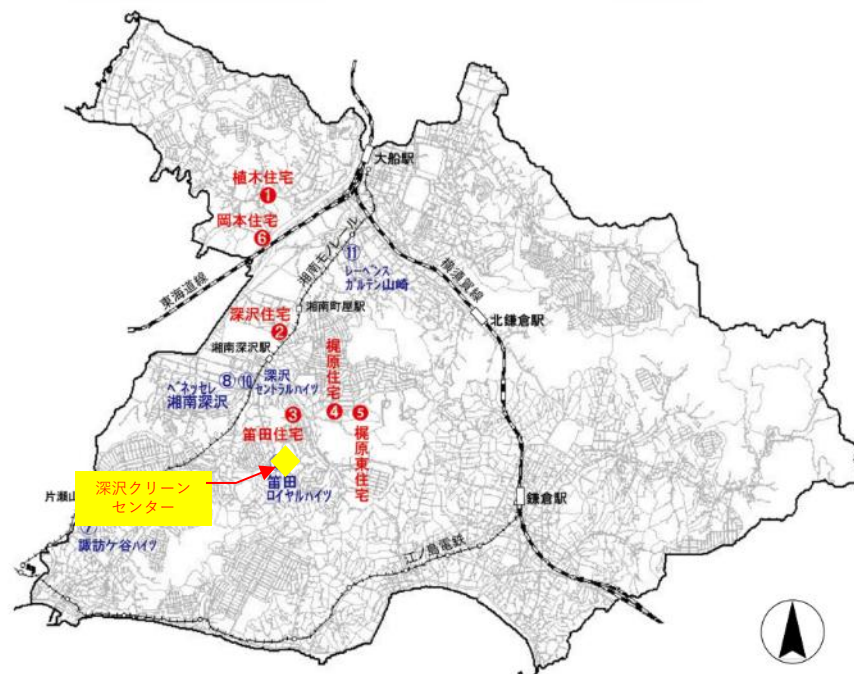
■再編計画での位置づけ

- ・老朽化した市営住宅の建替えに伴い、施設を集約し有効な土地利用を図る。
- ・6施設（諏訪ヶ谷除く）を1～2箇所に集約化して整備する。（PFI事業等で整備・運営）



■鎌倉市営住宅集約化基本計画

- ・6団地（植木、深沢、笛田、梶原、梶原東、岡本住宅）を建替え、2箇所程度に集約



1次事業

- ・笛田住宅と深沢クリーンセンター
余剰地に約350戸を集約化
➡令和3年度 PFI事業者を選定

2次事業

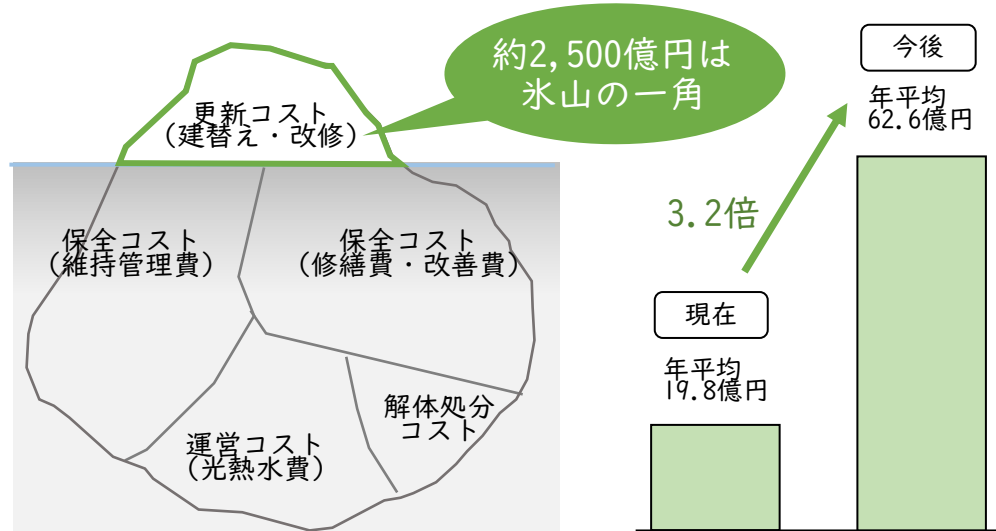
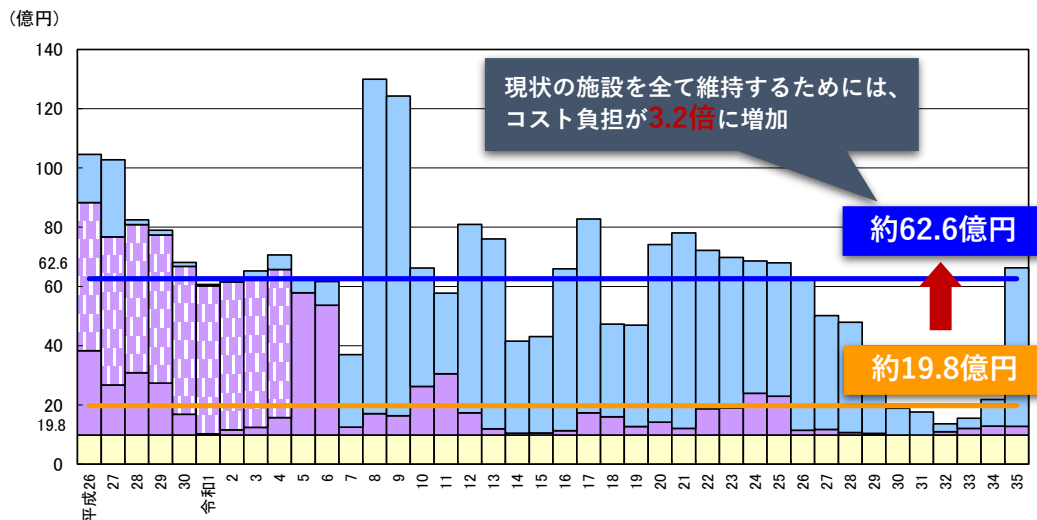
- ・深沢住宅、梶原東住宅、岡本住宅用地
のいずれかを第2次事業候補地とし、
約150戸整備 ➡候補地未定

整備イメージ（事業者提案）



■公共施設再編の取組

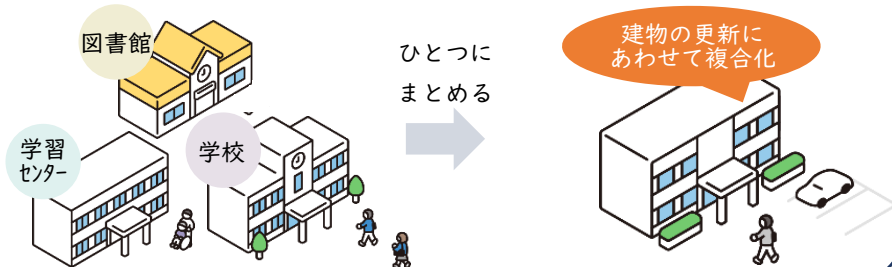
このまま施設を保持し続けた場合、40年間で
約2500億円（年間62.6億円）が必要となります。



こんな方法で再編を進めていきます

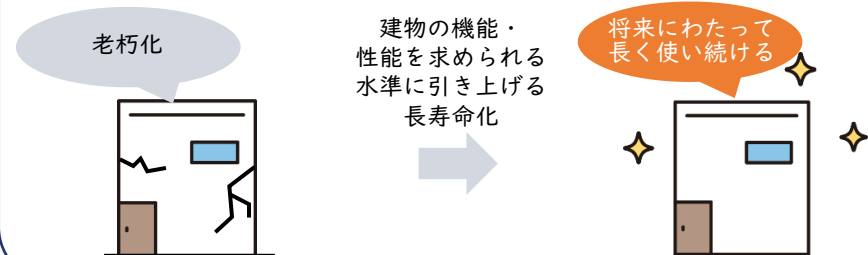
複合化・集約化

異なる種類の施設や同じ機能を持つ施設をひとつにまとめる



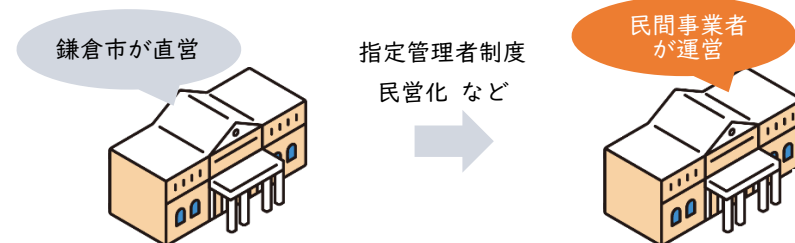
長寿命化

経年により老朽化した建物を将来にわたって長く利用できるようにする



官民連携

施設の整備や管理運営に民間のノウハウや資金を活用する



消防施設の状況

- ・ 鎌倉消防署は築50年（1974年）、浄明寺出張所は築46年（1978年）で、老朽化が進んでおり、**改築が必要な時期に差し掛かっています。**
- ・ 鎌倉消防署は、**津波浸水想定区域に位置**しています。
- ・ 浄明寺出張所は、**土砂災害特別警戒区域に位置**しています。



鎌倉消防署（昭和49年築）

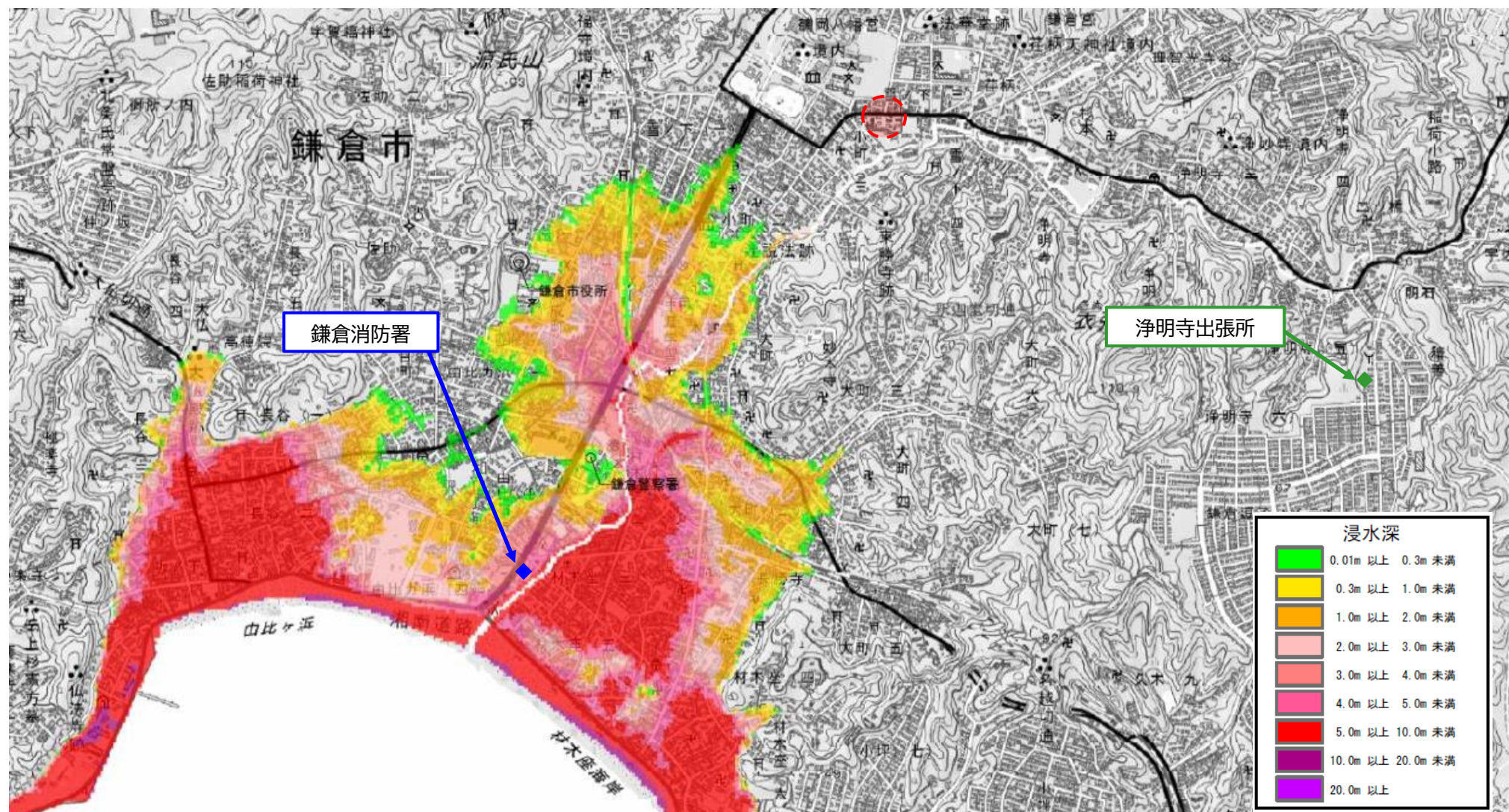
- ・ 昭和49年（1974年）築
- ・ 敷地面積 1874㎡
- ・ 延床面積 2568.69㎡（3階建）



浄明寺出張所（昭和53年築）

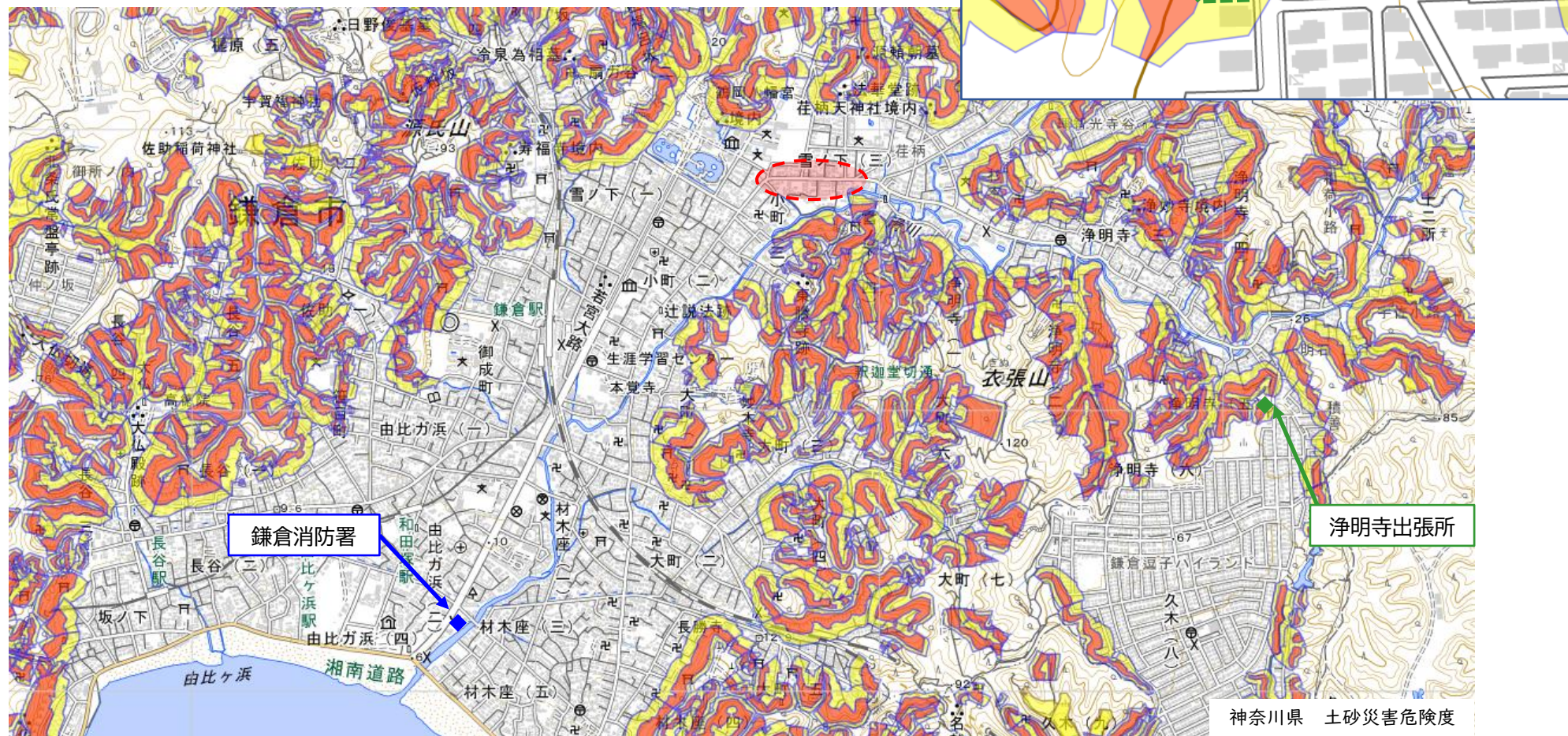
- ・ 昭和53年（1978年）築
- ・ 敷地面積 1731㎡
- ・ 延床面積 273㎡（1階建）

■津波浸水想定

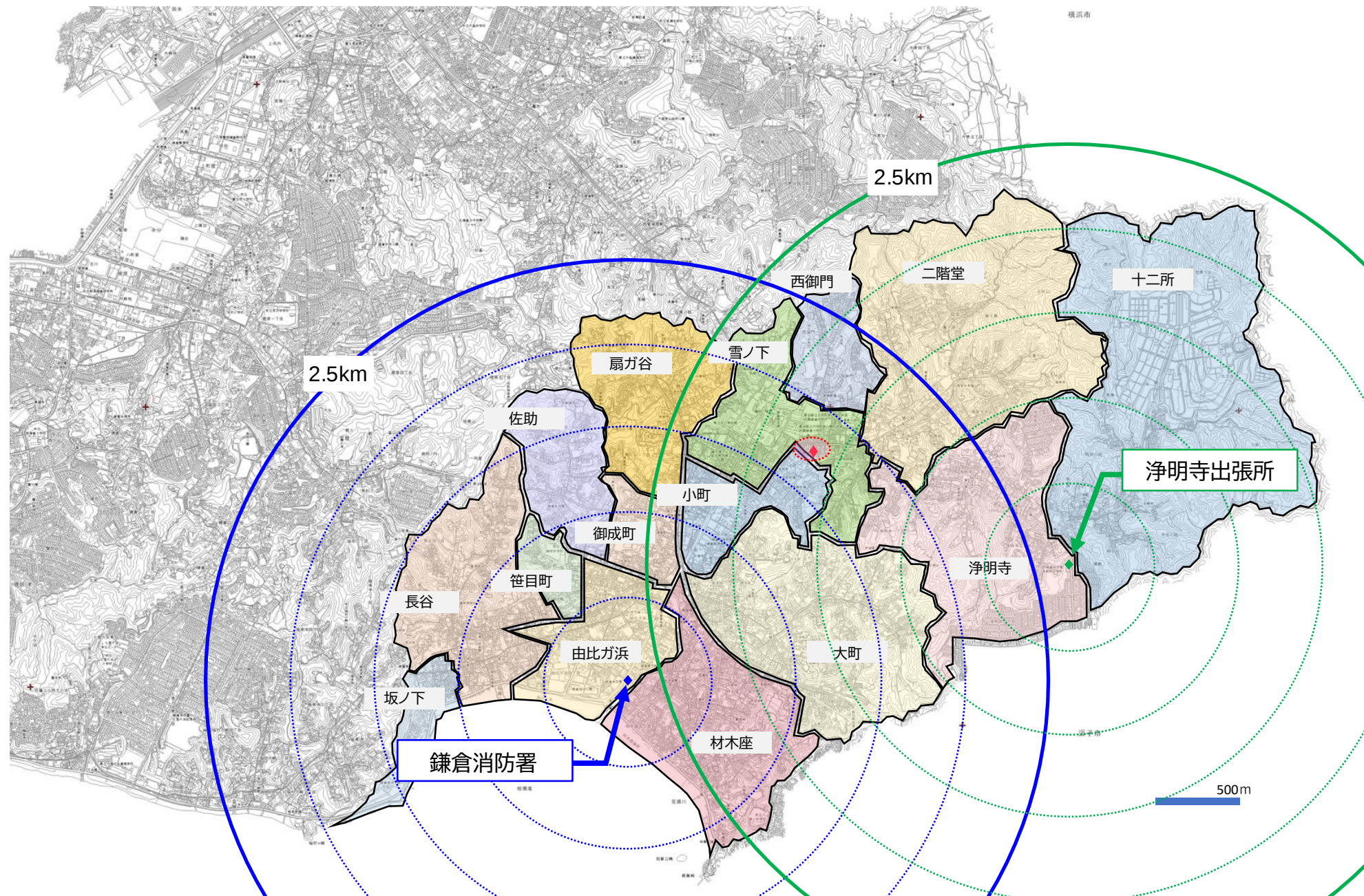


神奈川県津波浸水想定図

■土砂災害危険度



■ 現施設の受持ちエリア



■公共施設再編計画での消防施設の位置づけ

公共施設再編計画では、

- ・再編方針として、
消防救急活動に支障をきたさない範囲で配置の見直しを行うことや、津波浸水へ対応するため津波の影響の少ない場所への移転などを定めている。
- ・また、再編の内容として、
鎌倉消防署の建替え時期に合わせ、統合が可能な適地を選定し、浄明寺出張所と統合することを定めている。

図表 消防施設の配置等



■適地の選定

- ・全市的な配置を考慮
- ・津波浸水想定区域外
- ・土砂災害特別警戒区域外
- ・幹線道路沿がある

- ・現在の2つの施設の管轄エリアをカバーできる場所

「消防力の整備指針」（総務省消防庁）や緊急出動の運用実績などから、半径約2.5kmを経過区域として選定。



上記の条件を考慮し、

雪ノ下近辺での整備が適切

と判断しました。

図表 消防施設の配置等



○鎌倉消防署の管轄エリア

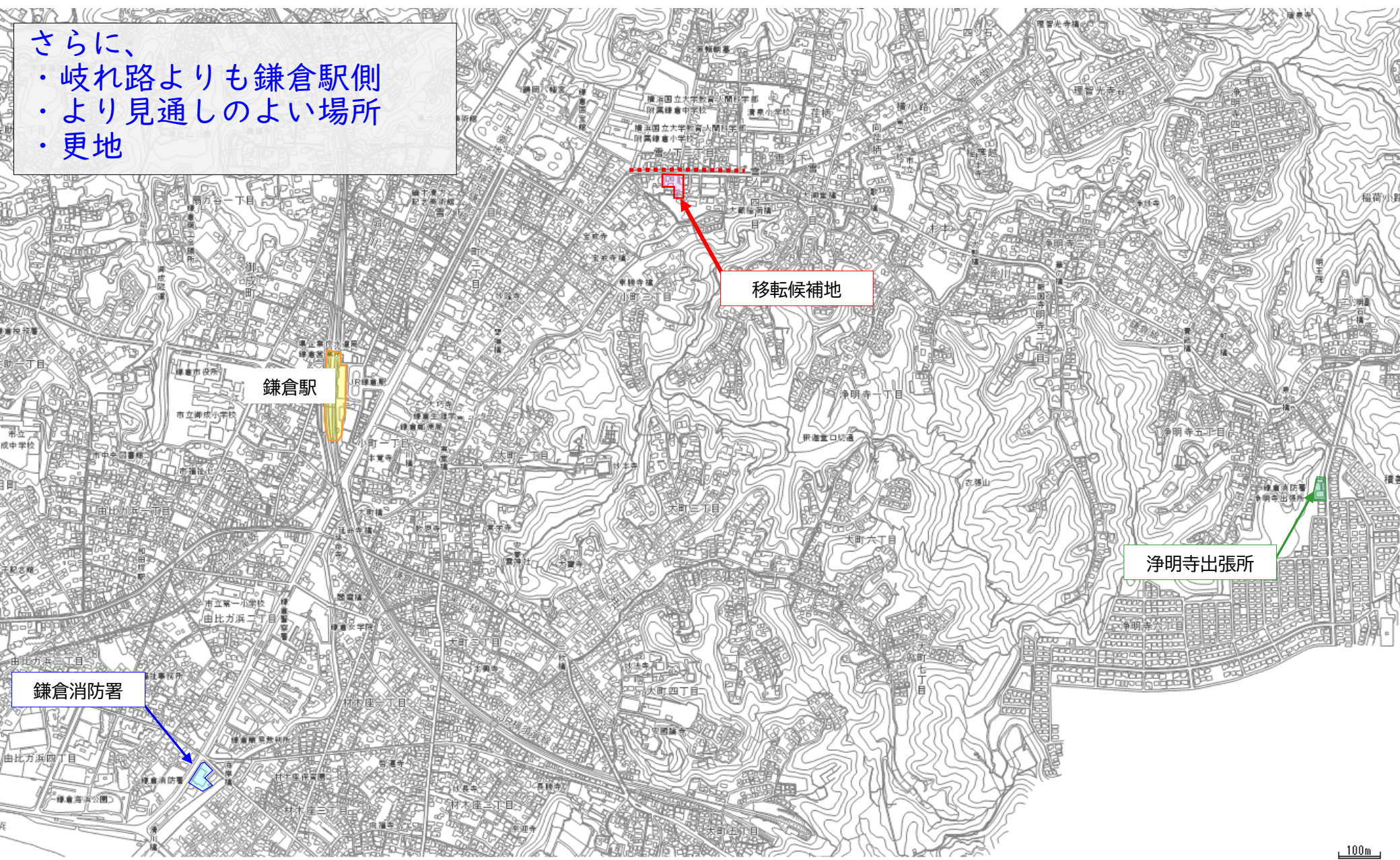
小町、大町、扇ガ谷、材木座、由比ガ浜、御成町、笹目町、佐助、長谷、坂ノ下

○浄明寺出張所の管轄エリア

西御門、雪ノ下、十二所、浄明寺、二階堂

■候補地の選定

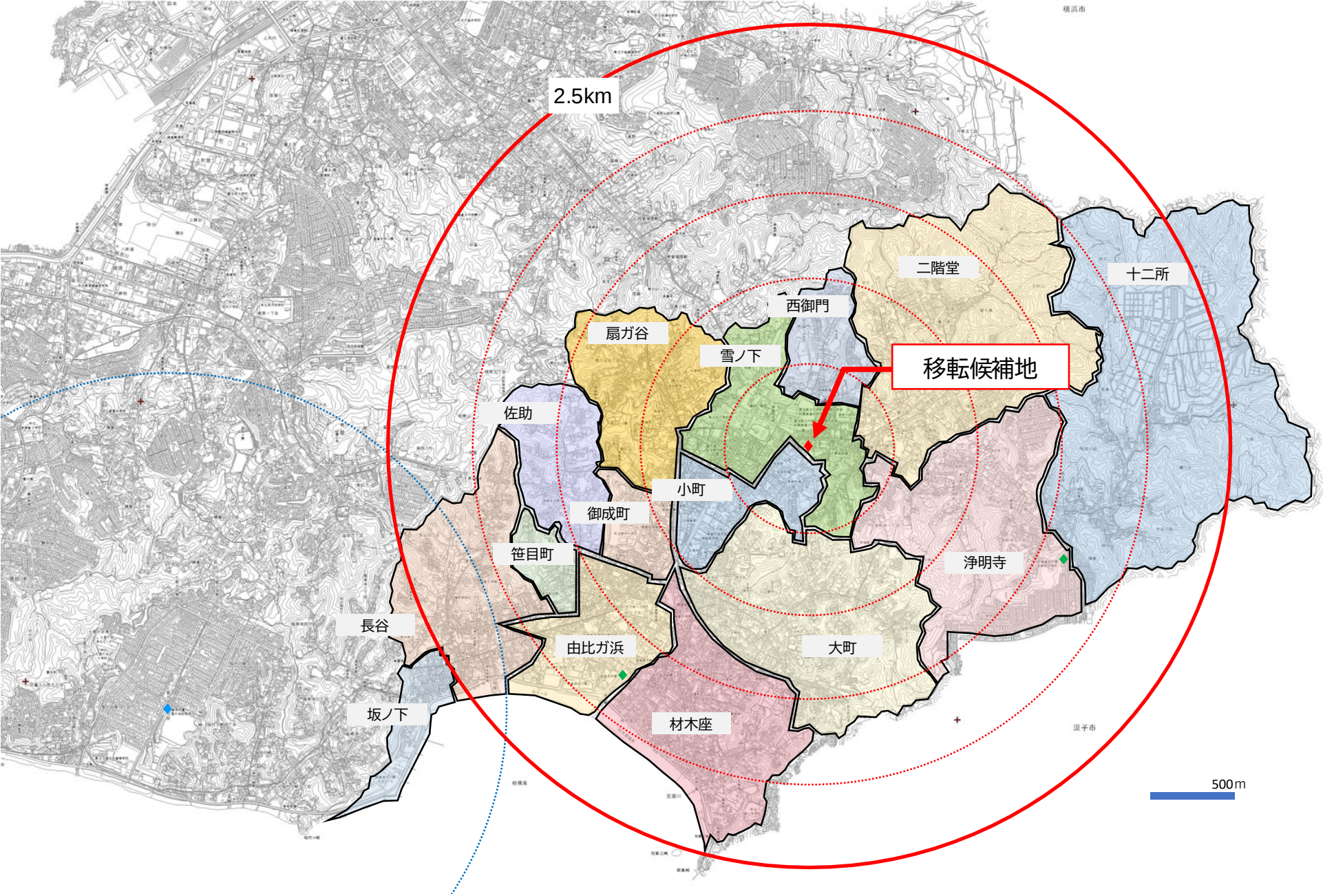
- さらに、
- ・ 岐れ路よりも鎌倉駅側
 - ・ より見通しのよい場所
 - ・ 更地



■候補地の選定



■新施設の受持ちエリア



■候補地の面積及び予定施設の規模について

敷地面積 約833㎡（3区画分）



■土地取得の進捗状況と今後の流れ



取得に向けた進捗状況

①法人所有地

令和5年5月末に契約し、令和5年9月に引渡しが完了。

②個人所有地

契約に向けて協議中。

③個人所有地

協議中。取得時期等は未定。

■今後の流れ

①土地取得

②③土地取得

基本設計、実施設計

工事

供用開始

■候補地の面積及び予定施設の規模について

現施設の保有車両

鎌倉消防署（6台）	
指令車（兼牽引車）	1台
ポンプ車	1台
水槽車	1台
はしご車	1台
救急車	1台
水上バイク	1台

浄明寺出張所（2台）	
ポンプ車	1台
救急車	1台

現施設の隊員数

鎌倉消防署
35人（常時11人）

浄明寺出張所
20人（常時7人）

※鎌倉消防署内に消防本部があった平成26年当時
消防本部 36人（常時26人）
鎌倉消防署 33人（常時10人）



水難事故に対しては、レスキューボードを七里ガ浜出張所、腰越出張所にも配置しているので、連携して対処していくことになると考えています。

今後、全市的な視点から、機能や車両・隊員の配置を検討し、施設規模等を計画していきます。

出動実績

火災件数（令和４年）

鎌倉消防署管内	５件
浄明寺出張所管内	２件
合計	７件

救急車の出動回数（平成31年～令和４年）

鎌倉消防署

	年間	一日平均
令和4 年	1840	5.04
令和3 年	1481	4.06
令和2 年	1496	4.10
令和元年	1732	4.75
平成30 年	1790	4.90

合計

	年間	一日平均
令和4 年	2854	7.82
令和3 年	2127	5.83
令和2 年	2210	6.05
令和元年	2698	7.39
平成30 年	2743	7.52

浄明寺出張所

	年間	一日平均
令和4 年	1014	2.78
令和3 年	646	1.77
令和2 年	714	1.96
令和元年	966	2.65
平成30 年	953	2.61

平日土日別（令和４年）

鎌倉消防署＋浄明寺出張所

	年間	一日平均
平日	2024	7.75
土日	830	7.98

時間帯別（令和４年）

鎌倉消防署＋浄明寺出張所

	年間	一日平均
22時－6時	436	1.19
6時－14時	1204	3.30
14時－22時	1214	3.33

■サイレン等の音について

サイレンについて

- ・法令により、走行中はサイレンを鳴らすことが定められています。
- ・その音量は、車両の前方20mにおいて90デシベルから120デシベルの間という基準になっています。



対応策

- ・夜間や早朝などの時間帯に出動する場合などには、通常のサイレン音と音色を和らげる機能を使用することで、周辺への配慮していくことを考えています。
- ・また、大船消防署に配置している救急車（トヨタ製）では、「コンフォートサイレン」という音色が違うサイレンが装備されており、音量も最低限確保したうえで、その周波数等を調整、耳障りな音が少なくソフトな音質のサイレンとなっています。

【参考】サイレンの機能について（他自治体での対応策、名古屋市HPより）

■フェードイン・フェードアウト機能

突然の大音量でのサイレンの吹鳴、一般住宅や病院到着時のサイレンの瞬時停止による周囲の人々の心理的負担を軽減するための機能として、サイレン音を徐々に大きくするフェードインと、徐々に小さくして停止するフェードアウト機能を全ての救急自動車に備えています。

■住宅モード機能

住宅モードは、閑静な住宅地の走行や、深夜の出動など、周囲住民に対してサイレン音による心理的負担を軽減する機能で、音量を確保しながら聴感上ソフトな音質で吹鳴します。全ての救急自動車に導入しています。